



## 「山峽ダム視察ツアー」 報告書



中国は、巨大な国。長江沿川には数億の人が住み、賑やかな都市があり、バスの車窓からは地平線の彼方まで続く水田、広大な工業団地の開発など、その躍動感とスケールの大きさに驚かされる。

長江は我々が見学した上流には、四国の大きさがすっぽり収まる四川盆地があり、ここから山峽(渓谷)を流れ下り、中原といわれる大平原に至り、やがて上海付近で太平洋に注いでいる。山峽では最も狭いところで100mあまり、茶色く濁った水が渦を巻いて流れている。ダムサイトは大平原への出口付近にあり、これより下流は対岸が霞んで見えるほどの大河となり、まるで瀬戸内海を思わせる流れとなる。

茨城大学の呉先生のお計らいにより、中国科学院の武漢岩土力学研究所の職員の方と交流会を持つことができ、新しい中国の国土建設に向けた確固たる意気込みが感じられ、有意義であった。

(山峽ダムの諸元について)

長江 : 全長6300km

山峽ダム: 重力式コンクリートダム、堤高185m、堤頂長2309.5m、ダムサイト地質は花崗岩。

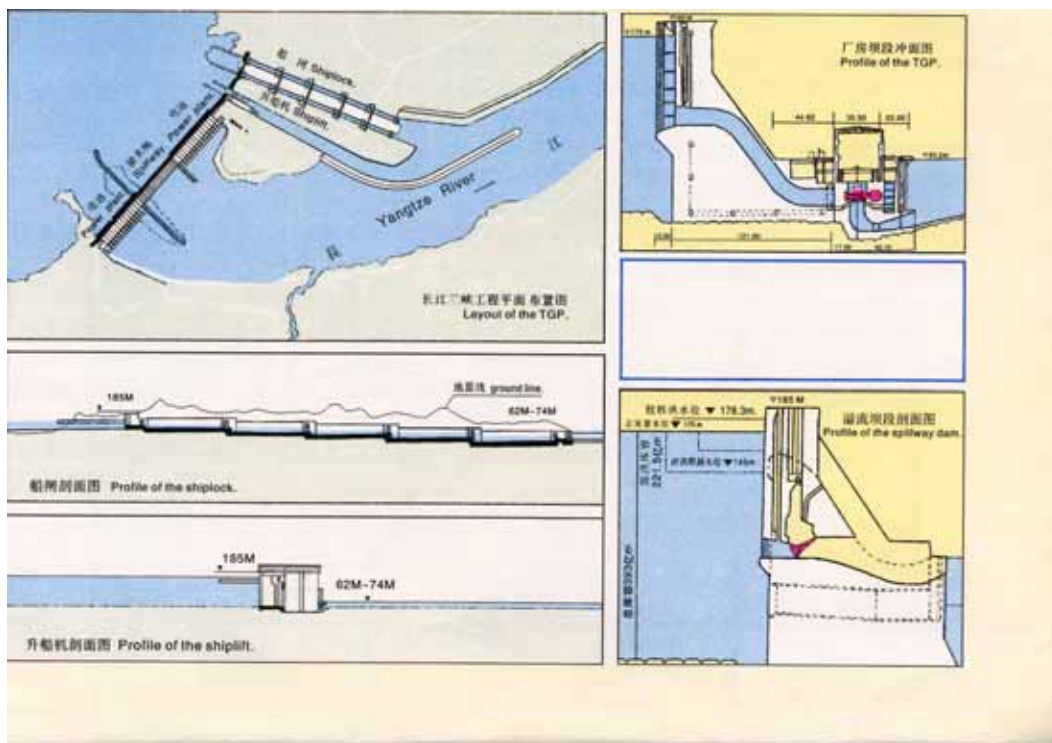
ダム湖 : 計画高水位175m、ダムによる堰上げ660km、ダム建設による移住人口約130万人。

工期 : 1993年～(2003年に発電開始)

建設の目的:

1. 洪水防除(1998年の洪水では、20万人が死亡)
2. 発電(世界最大の水力発電、発電容量70万kw、24基設置、最大発電量1820kw。
3. 航路の確保(1万t級の船舶の航行確保)
4. 灌漑用水の確保(ダム地点の長江水位は海拔約70m、下流側約1000kmの沿川は、平坦で肥沃な穀倉地帯、1年に米2回、麦1回を収穫)

(構造図)



(写真集)

(茨城県上海事務所にて)  
 林事務所長から上海におけるインフラ整備の現状や、交通体系プロジェクトについて説明を受ける。急速に進む除浦大橋、浦東新国際空港建設の現状や北京・上海間の高速度鉄道計画など壮大な構想が進んでいる。



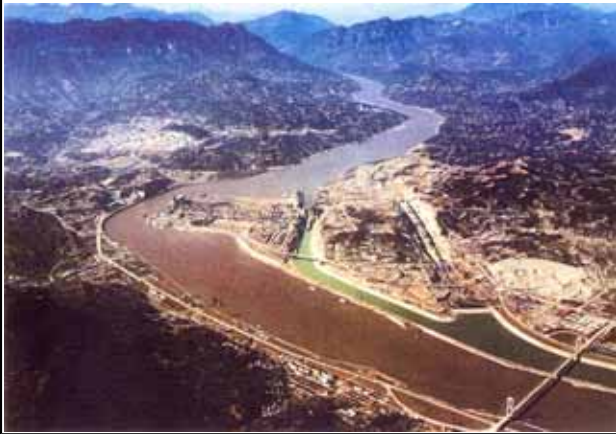


(中国長江山峡工程開発公司にて)  
陳明氏からダム模型を前に山峡ダム建設計画について説明を受ける。  
建設資金は、世界銀行からの借り入れ、日本からの借款で建設技術は、中国の独自技術。

(下流側から見た山峡ダム模型および完成予想図)  
右側がダム、左側が1万t級の船舶用のシップロック(閘門)。中央は、小船舶用のエレベーターリフト。



(工事現場全景)  
ダム湖は、延長600kmにもなる細長い湖となる。



(左岸側ダムサイトの展望台から見た工事現場)  
巨大な規模で対岸が霞んでいる。



(左岸側から見た直上流部のRC  
Dコンクリート打設)  
近くの原石山で、粗骨材、細骨材を  
採取し、写真中央部のコンクリートプ  
ラントで生産。



(下流側から見たシップロックの  
建設状況)  
幅30m、世界最大となる揚程120  
m、1万t級の船舶を航行させ、通  
過時間は約3時間。



(水没地点の長江山峡)  
水没する水位は、写真右側の白い  
標識地点で湛水標高は175m、現  
況水面が70~100mなので山峡  
の景観は、大きくは変わらないと思  
われる。

(上流に向かっての山峡)  
この付近で川幅は約150m、流量は約1200t、渦巻いて茶色の河水、かなりの土砂が流れているので、堆積土砂の処理はどうなるのだろう。



(移転の始まった沿川のまち)  
奉節(Fengjie)港付近。写真中央部から下側が移転の対象地、上部に新しいまちが建設中である。

(中国科学院、武漢岩土力学研究所の職員との交流会)  
右から2人目、右から6人目(副所長)の2人。

